

電波利用料技術試験事務及び研究開発の評価に関する会合（第4回） 議事要旨

日時：平成17年12月6日（火）14：00～17：30
場所：低層棟1F（総務省） 第1会議室

構成員 別紙のとおり

議題

- (1) 電波資源拡大のための研究開発・平成17年度一般公募案件の採択評価
- (2) その他

【配付資料】

- 資料 4-1 電波利用料技術試験事務及び研究開発の評価に関する会合（第3回）議事要旨(案)
- 資料 4-2 電波資源拡大のための研究開発（一般公募）平成17年度採択評価説明資料
- 資料 4-3 電波資源拡大のための研究開発（一般公募）平成17年度提案書
- 資料 4-4 電波資源拡大のための研究開発（一般公募）平成17年度採択評価専門評価結果
- 資料 4-5 電波利用料技術試験事務及び研究開発 平成17年度スケジュール

- 参考資料 4-1 電波資源拡大のための研究開発 平成17年度研究開発課題一覧
- 参考資料 4-2 電波資源拡大のための研究開発（一般公募）平成17年度基本計画書
- 参考資料 4-3 電波資源拡大のための研究開発の採択評価について

1 開会

事務局から議事次第に基づき、配付資料の確認があった。

資料 4-1「電波利用料技術試験事務及び研究開発の評価に関する会合（第 3 回）議事概要（案）」については、後ほど確認の上、コメント等があれば平成 17 年 12 月 13 日（火）までに事務局まで連絡することとなった。

2 議事

【議事（1）電波資源拡大のための研究開発・平成 17 年度一般公募案件の採択評価】

事務局から電波資源拡大のための研究開発・平成 17 年度一般公募案件の採択評価の概要について説明があり、質疑応答があった。主な内容は以下のとおり。

応募が複数ある個別研究課題について、それぞれに高い評価が与えられれば複数の応募が採択されることもあるのか。

個別研究課題一つにつき、評価点の最も高い一件を採択する。また、たとえ一件しか応募されていない個別研究課題であっても、評価点によっては不採択ということも考えられる。

不採択になった案件にも優れた点が見受けられる場合、不採択案件を採択案件に一部統合するなどして、その優れた点を採択案件に活かすことはできないか。

各提案者についてはそれぞれ綿密な計画のもとで応募をしていただいたと理解しているので、採択後に急遽その計画を変更することとなれば、全体の整合性が維持できず、研究開発の実施に支障をきたす可能性もあるため、採択後に各案件を統合することは難しい。その代わりに、コンソーシアム形式で応募可能とすることで、各社の優れた点を結集することができると考えている。

各提案者から資料 4-2「電波資源拡大のための研究開発（一般公募）平成 17 年度採択評価説明資料」及び資料 4-3「電波資源拡大のための研究開発（一般公募）平成 17 年度提案書」に基づき、電波資源拡大のための研究開発・平成 17 年度一般公募案件について説明があり、質疑応答があった。

（個々の提案に関する質疑応答については非公開）

【総括】

各提案に対する質疑応答の後、評価員から事務局へ評価調書が提出された。提案全体に対して以下のようなコメントがあった。

「V 未利用周波数帯への無線システムの移行促進に向けた基盤技術の研究開発」について、V-1 から V-5 までの個別研究課題に対し、提案者として NICT の同じミリ波デバイスグループが参加しているが、これほど広範に提案に参加して、開発体制として問題はないのか。

ミリ波帯の研究に関しては技術的に NICT が先行している部分が多くあるため、ノウハウを提供する補助的な立場で参加していると認識している。また、ミリ波の課題に対して同じグループが参加することで、それぞれの研究開発が連携を取る上でも有効である。また、エフォートの問題など実行上の観点から見ても、グループの各部門が各案件を担当するので体制的には問題ないと考えている。

【議題（２）その他】

資料 4-5「電波利用料技術試験事務及び研究開発 平成 17 年度スケジュール」に基づき、事務局から今後の評価会のスケジュールについて説明があった。

電波利用料技術試験事務及び研究開発の評価に関する会合
構成員

	氏名	所属	出欠
座長	羽鳥 光俊	中央大学工学部 教授	
座長代理	三木 哲也	電気通信大学 教授	
構成員	荒木 純道	東京工業大学大学院 教授	
"	黒田 道子	東京工科大学 教授	
"	鈴木 康夫	東京農工大学 教授	
"	東倉 洋一	国立情報学研究所 副所長	
"	根元 義章	東北大学大学院 教授	×
"	本城 和彦	電気通信大学 教授	×
"	森山 光彦	(株)三菱総合研究所 上席研究理事	